



## 福祉施設における HIV 陽性者の受け入れ課題と対策

研究分担者： 山内 哲也（社会福祉法人武蔵野会リアン文京 総合施設長）

研究協力者： 野村 美奈（社会福祉法人武蔵野会リアン文京 施設長）

高橋 道也（社会福祉法人武蔵野会千代田区障害者福祉センター 所長）

萬谷 高文（社会福祉法人日輪 ラスター 所長）

### 研究要旨

研究1は、福祉施設における HIV 陽性者の受入れの促進するために、福祉施設従事者を対象にした HIV/AIDS の研修を実施した。研修は、医師や当事者による講義や「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう」という受入れマニュアルを活用して、HIV/AIDS に関する基礎知識や福祉施設における HIV 陽性者の受入れ手順、地域課題となっている HIV 陽性者の生活支援などの現状について伝達し、HIV/AIDS に関する意識啓発を図った。

研修後アンケートではエイズに関して、受講者個人レベルでの理解は促進され、HIV 陽性者の受入れ意識は向上した。一方、個人が所属する組織への受入れ意向を確認する質問項目では比較的受入れ意向は低い結果となった。

福祉施設における HIV 陽性者の受入れに関して、福祉施設は受入れ事例が身近になく、福祉従事者の HIV/AIDS への関心が薄いことなどから組織メンバー全体に理解を浸透する研修方法の検討が課題としてあがった。

研究2は、研究1で使用していたマニュアル「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう」に新たに制度面や人権関連の内容を追加する改訂作業を行い、1万部を印刷し、関係機関に配布した。

研究3は、福祉施設の HIV 陽性者の受入れに関する実態調査を行い、現在の福祉施設における HIV 陽性者の受入れ課題を探り、対策を検討するものである。今年度は、調査票の作成までを終了し、来年度に調査と分析を引き続き実施することになった。

### 研究1

#### 福祉施設の受入れマニュアルによる研修会

#### 研究目的

HIV 陽性者の福祉施設利用ニーズに対して、現状の福祉施設は HIV 陽性者の受入れに関しては残念ながら消極的である。

原因としては、HIV/AIDS についての基本的知識不足やそこからくる不安感、受入れ前例がないことなどから、HIV 陽性者の受入れを躊躇する意識が働いている。

さらに、HIV/AIDS に関する差別や偏見が背景にあることが先行研究で示唆されている。これらを踏

まえ、福祉施設従事者対象の研修会を実施し、福祉施設における HIV 陽性者の受入れ促進を企図した。

#### 研究方法

平成23年度の分担研究を基に作成した冊子「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう -」を全国の高齢者、障害者福祉施設に配布し、研修希望の福祉施設や関係団体において、冊子を教材にした福祉施設職員対象の HIV/AIDS 啓発研修を行った。

研修後に、研修の効果及び今後の HIV 陽性者受入れの参考とするために、受講者に研修後のアンケート調査を実施した。

### (倫理面への配慮)

アンケートの趣旨説明を行い、自由意思による回答と匿名化についてなどを説明し、倫理面について配慮した。

### 研究結果

福祉施設職員対象に HIV/AIDS の啓発研修を計画し、全 8 回の啓発研修会を実施した。

開催地は、群馬県、東京都、大阪府の各地で福祉施設や関係団体を会場にして、計 408 人が受講した(表 1)。

アンケートを研修後に配布し、これを回収して分析した。各研修は地域事情によって研修時間、カリキュラムやアンケートの調査項目に若干の違いがある。共通する項目を集計したものが表 2 である。

結果、受講したのは 408 人であり、回答件数は 408 人(100%)であった。回答者の内訳は、高齢者施設等の介護職 315 人(77.2%)、看護師 38 人(9.3%)、高齢者・障害者施設等の支援員・相談員 36 人(8.8%)、代表・施設長 11 人(2.7%)、ヘルパー 6 人(1.5%)、その他(医師、保健師、行政職) 2 人(0.5%)であった。

HIV 陽性者の受入れ経験(過去 10 年間)は、408 人中 375 人(91.9%)は経験がなく、13 人(3.2%)が経験ありとした。

研修内容の満足度は「大変参考になった」が 325 人(79.7%)、「参考になった」が 76 人(18.6%)であった。その他、無回答が 7 人(1.7%)であった。

個人の受講者の受入れ意向についての質問では、「他の利用者と同様に受け入れたい」が 283 人(69.4%)、「病状が安定していれば受け入れても良いと思う」が 78 人(19.1%)、「不安はあるが受け入れることはできる」が 39 人(9.6%)と程度の差はあるが肯定的な回答は全体の 98.1%であった。

一方で、「不安が強くてすぐ受入れるのは難しい」という消極的な回答は 7 人(1.7%)であった。昨年度と同じ質問項目の回答は 1.5%であり、研修受講後も不安が拭えない受講者が 1~2%の割合で存在するということが分かる。

次いで、個人ではなく所属する事業所での受入れ意向を尋ねる質問では、「事業所で受入れ可能」は 184 人(45.1%)、「病状が安定していれば受入れは可能」は 142 人(34.8%)、「準備を整えば受入れ可能」55 人(13.5%)、「受入れは難しい」21 人(5.1%)という結果となった。

自由回答では、福祉事業所に従事する看護師から終末ケアや医療的ケア場面での対処方法に関する具体的な受入れ前提の質問が増えてきている印象を受けた。

看護師へ福祉施設における HIV 陽性者の生活支援は終末期まで及ぶという見通しについて言及する必要性が示唆された。

### 考察

先行研究において、福祉施設職員の多くは曖昧な HIV/AIDS の知識しかなく、過去のマスコミ報道によって形成された「怖い病気」というマイナスイメージを強く抱いていることや HIV/AIDS の問題は、医療機関が対応するものであり、福祉施設には関係がない、という認識傾向がある。

特に、HIV 陽性者を実際に受入れている福祉施設の情報が個人のプライバシーなどの関係で公開されにくいいため、受入れ基準や前例のない中、行政や医療機関からの「HIV 陽性者を受入れてほしい」との要請は、唐突に要請されるように感じられるため、受入れに関して消極的あるいは防衛的になる傾向が強いことが推測される。

本研修の継続実施による影響もあって、実数は少ないものの受入れに向けて、環境整備を始める施設も出てきており、良い感触を得ている。

### 結論

参加者の HIV/AIDS の理解と自分が勤務する福祉施設への受入れ意向は研修受講後のアンケート結果から促進している結果となった。

特に、当事者からの発信は等身大の生活者としての視点で語られるので、参加者は共感をもって受け止めやすく、HIV 感染は人間の一つの属性に過ぎないという気づきに至りやすい。

また、福祉領域の対象者として具体的に認識しやすいので、今後も HIV 陽性者の方から当事者目線での生活のしづらさ、生きづらさについて語ってもらうことは大変効果が高いので、研修プログラムに積極的に導入していく予定である。

## 研究 2

### マニュアルの改訂

#### 研究目的

冊子「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう -」は、HIV/AIDS に関してあまり知識がない福祉従事者にわかりやすい内容であるとの評価を得てきた。

一方で、高齢福祉分野のケアマネージャーや障害福祉分野の相談支援員等から制度面や心理面での対応についての情報がほしいという要望があがったため、冊子の改定に取り組む。

#### 研究方法

項目を整理し、改定作業を行った。主な追加修正箇所は、①自立支援医療（更生医療）等の制度説明、②人権や障害者差別解消法、③性の多様性、④プライバシー／心理面のフォロー、⑤社会福祉法人の社会公益事業としての HIV 陽性者の受入れ、⑥血液暴露事故の対応、⑦福祉施設に勤める看護師のよくある質問コーナー、⑧連絡先の修正などである。

#### 研究結果

2019 年 1 月に冊子「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう -」（改訂版）を発行し、10000 部を印刷し、関係者に配布した。

#### 考察

改訂版のマニュアルで、さらに研修を効果的に行っていく予定である。

## 研究 3

### 福祉施設における HIV 陽性者の受入れ課題と対応に関する意識調査

#### 研究目的

福祉施設に努める福祉従事者の HIV 陽性者の受入れ意識を調査し、福祉施設における HIV 陽性者の受入れ課題と対応を検討する。

#### 研究方法

東京都内の高齢者施設などに、福祉従事者の HIV 陽性者の受入れについてアンケート調査を実施する。

#### 考察・結果

質問票の作成が完了したので来年度に質問票を配布し、分析する予定である。

#### 健康危険情報

該当なし

#### 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

#### 研究発表

なし

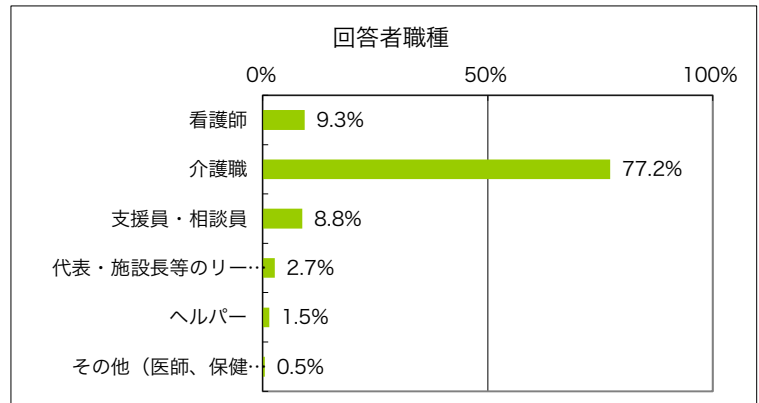
表 1

## HIV/エイズ啓発研修 参加者年間アンケート結果

※無効回答扱い  
単一選択設問に複数回答の場合

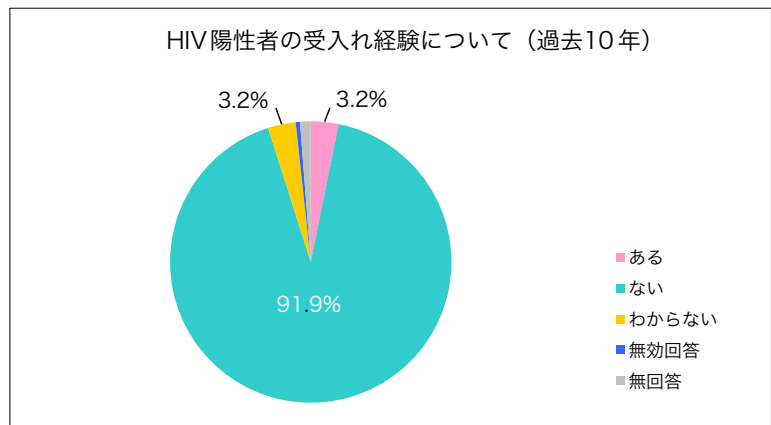
## 回答者職種

	回答数	%
看護師	38	9.3%
介護職	315	77.2%
支援員・相談員	36	8.8%
代表・施設長等のリーダー層	11	2.7%
ヘルパー	6	1.5%
その他(医師、保健師、行政)	2	0.5%
計	408	100.0%



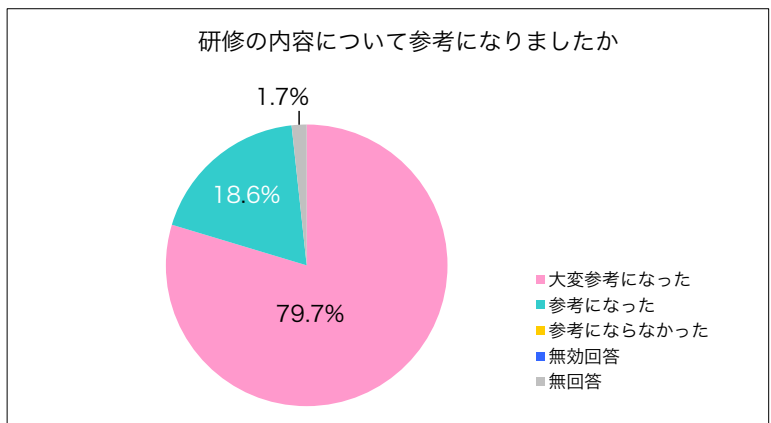
## Q1. HIV陽性者の受入れ経験について (過去10年)

	回答数	%
ある	13	3.2%
ない	375	91.9%
わからない	13	3.2%
無効回答	2	0.5%
無回答	5	1.2%
計	408	100.0%



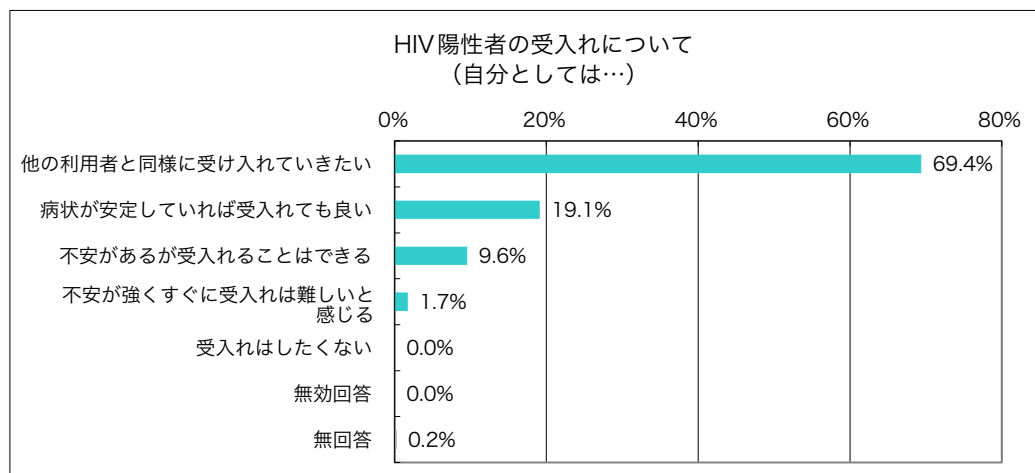
## Q2. 研修の内容について参考になりましたか

	回答数	%
大変参考になった	325	79.7%
参考になった	76	18.6%
参考にならなかった	0	0.0%
無効回答	0	0.0%
無回答	7	1.7%
計	408	100.0%



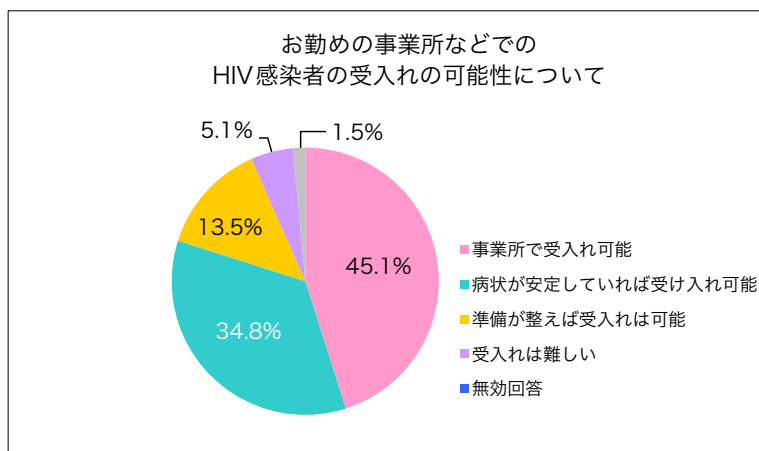
## Q3. 自分だったらHIV陽性者の受入れについてどう対応しますか

自分としては…	回答数	%
他の利用者と同様に受け入れていきたい	283	69.4%
病状が安定していれば受入れても良いと思う	78	19.1%
不安があるが受入れることはできる	39	9.6%
不安が強くすぐに受入れは難しいと感じる	7	1.7%
受入れはしたくない	0	0.0%
無効回答	0	0.0%
無回答	1	0.2%
計	408	100.0%



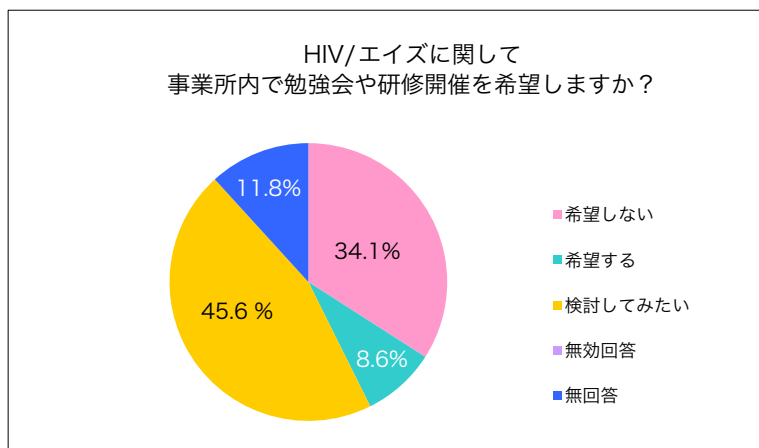
## Q4. お勤めの事業所などでのHIV感染者の受入れの可能性についてお尋ねします

	回答数	%
事業所で受入れ可能	184	45.1%
病状が安定していれば受け入れ可能	142	34.8%
準備が整えば受入れは可能	55	13.5%
受入れは難しい	21	5.1%
無効回答	0	0.0%
無回答	6	1.5%
計	408	100.0%



## Q5. HIV/エイズに関して事業所内で勉強会や研修開催を希望しますか？

	回答数	%
希望しない	139	34.1%
希望する	35	8.6%
検討してみたい	186	45.6%
無効回答	0	0.0%
無回答	48	11.8%
計	408	100.0%





## 研修の内容について参考になりましたか

どのような点	主なご意見（重複した内容は省いています）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エイズは怖い病気という不安がなくなりました</li> <li>・エイズに対する自分自身の差別に気づいた</li> <li>・エイズの基本的な知識が学べて大変参考になった</li> <li>・服薬でコントロール可能であることが分かって勉強になった</li> <li>・むやみに怖がっていた自分が恥ずかしい</li> <li>・感染力が低いことがわかり、過剰な防衛をしないう伝えていきたい</li> <li>・エイズに対する自分の無関心が社会に差別や偏見を生むことに気づかされた</li> <li>・病気自体の問題というより、地域社会の成熟度の問題と理解できた</li> <li>・感染症について正しく怖がり、正しく知って、正しく対応することが学べた</li> <li>・HIV陽性者の方も私たちも同じように地域社会で生活のしづらさや困難を抱えていることが分かった。</li> <li>・HIV陽性者の受入れの際にどこに相談すればよいかわかったのがよかった</li> <li>・HIV/AIDSについて新しい医学的な知見なども紹介してもらい役に立った</li> <li>・このマニュアルを使って感染症研修をしてみます</li> <li>・HIVやエイズについて間違った知識を持っていた</li> <li>・毎日の服薬と定期的通院が大切</li> <li>・はじめの一歩に挑戦できるかもしれないと思った</li> </ul>	

## HIV陽性者の受入れについて

受入れが難しいと感じる理由	主なご意見（重複した内容は省いています）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全体の合意が得られないと自分だけではできない</li> <li>・法人や施設長は感染リスクを優先すると思う</li> <li>・利用者やその家族の不安にどのように対処すればよいのか悩む</li> <li>・感染対策や職員教育が不十分な環境で受入れるのは難しいと思う</li> <li>・医療と福祉の連携が取れていない中では受入れは困難</li> <li>・医療の中での連携が取れていない中での受入れは難しい</li> <li>・主治医が反対する</li> <li>・インフルエンザなどの対応が不安</li> <li>・胃ろうや終末期ケアを考えるともう少し施設での受け入れ体制の整備が必要</li> <li>・スタンダードプリコーションが徹底されていない</li> <li>・HIV陽性者の方のメンタルヘルスについて対応が分からない</li> </ul>	

## お勤めの事業所等でのHIV陽性者の受入れの可能性について

どのような準備が必要でしょうか	主なご意見（重複した内容は省いています）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政の所管の後押し</li> <li>・経営層の意識改善</li> <li>・職員教育 感染症全般</li> <li>・職員教育 スタンダードプリコーション</li> <li>・職員研修 人権研修</li> <li>・医療との連携</li> <li>・職員一人ひとりの差別と偏見意識の自覚</li> <li>・受入れマニュアルの整備</li> <li>・地域社会の理解と協働 医療・福祉・教育など</li> <li>・血液暴露などの緊急対応マニュアルの作成</li> <li>・HIV陽性者の終末期ケアまでの見通し どんな看護やケアが必要になるのか知りたい</li> <li>・当事者の方に語ってもらったがとても良かった 出来れば当事者の方との交流</li> </ul>	

事業所の受入れが難しい理由	主なご意見（重複した内容は省いています）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・たぶん経営層の許可が下りない</li> <li>・職員の合意が得にくい 反対意見の者が出て混乱する</li> <li>・人手不足と職員の質の低下があり新しい取り組みは難しい</li> <li>・家族対応が大変そうなので受入れには消極的になってしまう</li> <li>・職員も家族への説明が大変そう</li> <li>・行政(所管)が無関心、積極的に行うモチベーションが持てない</li> <li>・本人の受け入れは大丈夫だとは思いますが、家族のメンタルなどの問題の絡みでは現状対応出来ないと思う。</li> <li>・他の医療機関との連携が難しくそう（入院が拒否される）</li> <li>・スタンダードプリコーションが徹底されていない現場なので感染リスクが心配</li> <li>・業務が増えそう</li> </ul>	

## 感想・ご意見があれば自由にご記入ください

感想・ご意見	主なご意見（重複した内容は省いています）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の基本を学べてよかった</li> <li>・HIV/AIDSについて基本的な知識を学べてよかった。</li> <li>・人権意識としてのエイズ問題は新鮮でした 少しでも差別のない社会になれるように協力したい</li> <li>・実際に受け入れしている施設の話や利用者の方の話が聞きたい</li> <li>・施設の経営者やリーダー層に聞いてもらいたい</li> <li>・スタンダードプリコーションの徹底が大切だとわかった</li> </ul>	